

JICA 理事長賞の受賞

この度、国際耕種株式会社は、JICA 理事長賞を受賞した。タジキスタン、南アフリカ、南部アフリカの国別/地域別特設「野菜栽培」コースや、集団研修「野菜栽培技術」コース、「陸稲品種選定技術」コースなど、約 20 年にわたって JICA 筑波で実施してきた研修事業への貢献が評価されたほか、中東・アフリカを中心とした専門家派遣やプロジェクト実施の実績を評価していた。

研修コースの運営は、多くの方々の協力によって支えられてきた。講義は、研究機関、大学、団体の研究者に、見学では、茨城県内外の関係機関や農家の方々にお世話になった。圃場実習では、JICA 筑波より圃場管理業務を委託されている株式会社川上農場のスタッフの皆さんのお世話になっている。川上農場には兼業農家の方もいて、圃場管理のサポートだけでなく、地元つくばの農業経験にもとづく、野菜や陸稲栽培に関する助言をもらい、JICA 筑波の栽培技術体系の構築に重要な役割をになっていただいていた。JICA 筑波では我々受託会社が配置する研修指導員（インストラクター）のほか、JICA 筑波に所属し、指導的立場から、研修に助言したり、講義実習を担当する各専門分野の指導者（アドバイザー）がいる。歴代のアドバイザーの方々には、専門分野にとどまらず、研修全体にわたって、技術的な助言を受けた。また、歴代の JICA 担当職員や研修業務課長、所長にもご支援をいただいた。さらに、同じ執務室に机をならべ、協力しつつ、研修を実施してきた他コースのインストラクターの方々にも本当にお世話になった。これらお世話になった方々と、これまでの研修に真剣に取り組んでくれた研修員達に感謝をし、喜びを分かち合いたい。

JICA 筑波は今年 40 周年を迎えており、我々が研修指導業務を始めた 20 年前にはすでに、いわゆる JICA 直営研修の長年の蓄積があった。我々は、その経験に学び、圃場実習重視と研修員のニーズに応じた丁寧な指導を心掛けてきた。同時に、国際耕種は、国内の研修事業と海外の技術協力事業を両立させ、国内の経験を海外で、また海外の経験を国内で活かすことを目指し、ほとんどの社員が、講義や実習、発表会などで、研修にかかわり、研修員と社員が経験を共有できるように努めてきた。また、帰国研修員が、各国の技術協力プロジェクトのカウンターパートになることもある。その場合、日本の文化・習慣・技術を理解しているために、現地の活動が円滑に進む。これも本邦研修を海外技術協力で活かす事例であり、我々が期待する波及効果のひとつである。

国際耕種が大切にしている 3 つの視点、「現場からの発想」、「対話と協働」、「連携の促進」は、海外業務だけでなく、JICA 筑波における研修でも重要である。研修員の任地の課題を理解し、よく議論し、その解決策を模索する。そして、様々な講義・実験実習・見学を問題解決の糸口につなげ、将来の連携のきっかけをつくっていきたいと考えている。現在、JICA ではコロナ禍の状況に対応した本邦研修が模索されている。今までの経験を活かしながら、より良い研修の実施に努め、その成果を海外事業にも活かしていきたい。



Web 授賞式の後日、JICA 筑波で表彰状と記念品が授与された。